



SHIBUYA109 lab.

SHIBUYA109
ENTERTAINMENT

2021年3月16日
株式会社SHIBUYA109エンタテインメント

若者のお金に対する意識・実態調査

貯金平均額約30万円！近い未来の“もしも”に備えて無理せず貯金
むやみな浪費に抵抗感 価値の見極めを重視したイマドキ若者の“メリハリ消費”の裏側

株式会社SHIBUYA109エンタテインメント(本社：東京都渋谷区、社長：木村 知郎)が運営する若者マーケティング研究機関『SHIBUYA109 lab. (読み：シブヤイチマルキューラボ)』は、around20(15~24歳)を対象に、「若者のお金に対する意識・実態」について調査を行いました。



Copyright© SHIBUYA109ENTERTAINMENT Corporation All Rights Reserved.

【若者のお金に対する意識・実態トピックス】

【1】月収の使い道 1位「交際費」2位「貯金」3位「ファッション・アクセサリ」

コロナ禍により交際費を「貯金」へ回す動きが増加

今まで使い道として一番多かった「交際費」がコロナ禍により減少し「貯金」が増えるなど、お金の使い道に変化が生じていることが分かっています。

【2】やりくり上手の背景にある「むやみな浪費は悪」という価値観。SNSで節約術をチェックし有意義に

お金を有意義に使うために、「ポイントを貯めている」「SNSで節約術をチェック」という声が多く聞かれています。

【3】若者の貯金総額平均約30万円！約8割が貯金、「無理をしない」貯金スタイル。

目的は学生の間に起こりうる“もしもの時”に備えること

「すごく欲しいけど高額なものがあつたときに、貯金から支払えるようにするため」など、近い将来に起こりうる、ポジティブな“もしも”に備える傾向にあります。

【4】貯金はするけど投資は“怖い” 信頼できる家族のサポートでお金の知識を

資産運用に関しては、お金に対する価値観が異なる友人よりも、家族を中心に身近で信頼できる人のサポートを受けながら始めていきたいという声が多く聞かれています。

【5】所長が分析！“メリハリ消費”を実現するための節約術を駆使する若者達。

一番の節約術は「購入前に熟考すること」

「価値を感じるもの」を見極める工程に時間をかけることで節約につなげていることが分かっています。

※ 公開データの引用・転載の際は、『SHIBUYA109 lab.調べ』と明記いただきますようお願い申し上げます。
SHIBUYA109 lab./<https://shibuya109lab.jp>

※ 本リリースに記載の会社名、製品名、サービス名等は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

**【1】月収の使い道 1位「交際費」2位「貯金」3位「ファッション・アクセサリ」
コロナ禍により交際費を「貯金」へ回す動きが増加**

月収※図1について聞いてみたところ、平均金額は58,575円となり、最も多い収入源※図2はアルバイト(86.5%)、定額のお小遣いによる収入を得ている若者は18.7%という結果となりました。

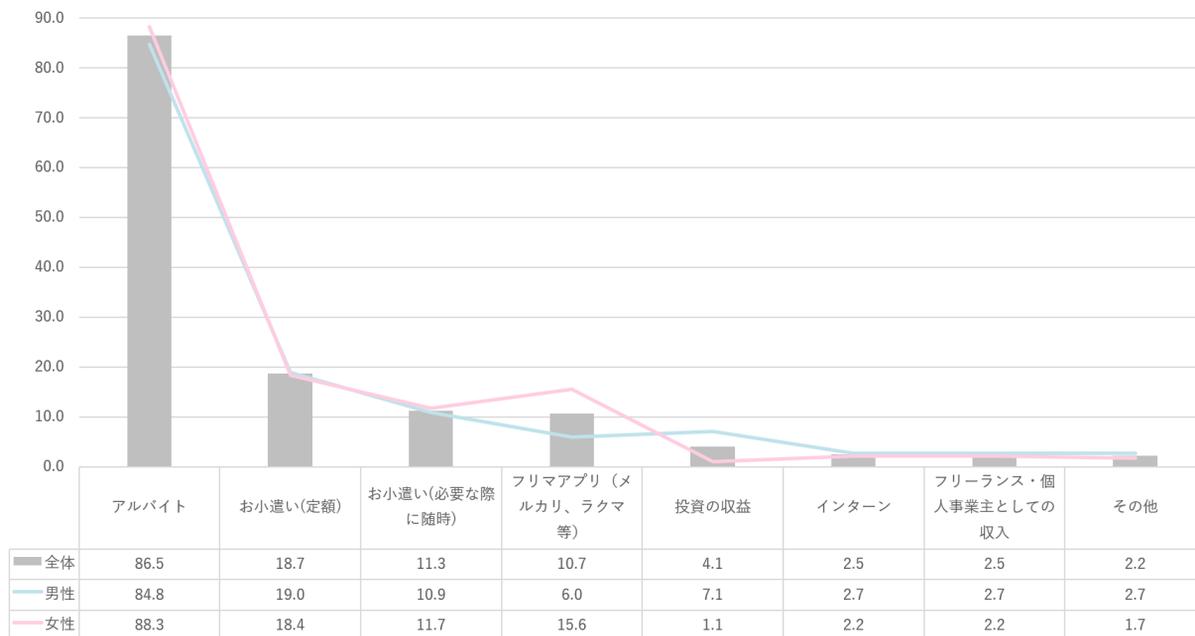
図1 Q. 1ヵ月あたりの収入(直近1年間の平均金額)
WEB調査 n=400 (男性:200/女性:200)

1ヵ月あたりの収入(直近1年間の平均金額)	
全体	58,575円
男性	67,375円
女性	49,775円

Copyright© SHIBUYA109ENTERTAINMENT Corporation All Rights Reserved.

図2 Q. あなたの収入源となっているものを教えてください。(複数回答)

WEB調査 n=363 (男性:184/女性:179)



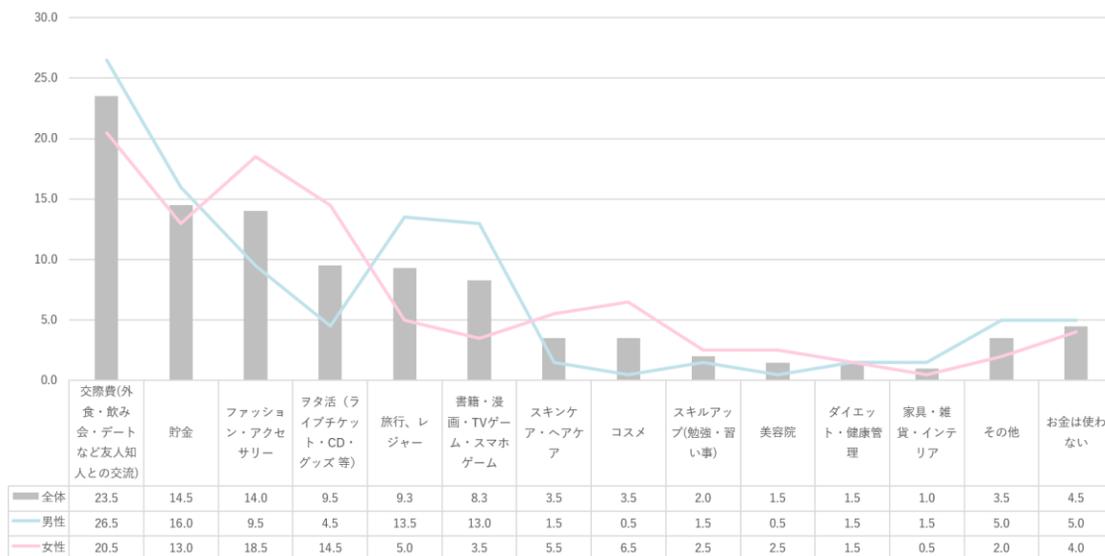
Copyright© SHIBUYA109ENTERTAINMENT Corporation All Rights Reserved.

月収の使い道※図3について聞いてみたところ、最も多いのは「交際費(23.5%)」、次いで「貯金(14.5%)」「ファッション・アクセサリ(14.0%)」となり、各カテゴリの支出平均額※図4は交際費は15,125円/月、貯金は17,075円/月、ファッション・アクセサリは10,388円/月ということが分かりました。

図3 Q. あなたのお金の使い道として最も多いものを教えてください。(単一回答)

※家賃や光熱費・交通費等ライフラインを除いてお答えください。

WEB調査 n=400 (男性:200/女性:200)



Copyright© SHIBUYA109ENTERTAINMENT Corporation All Rights Reserved.

図4 Q. 各カテゴリにおける1ヵ月あたりの支出(直近1年間の平均金額)
WEB調査 n=400 (男性: 200/女性: 200)

各カテゴリにおける1ヵ月あたりの支出(直近1年間の平均金額)	
交際費	15,125円
貯金	17,075円
ファッション・アクセサリー	10,388円
コスメ	6,150円
スキンケア・ヘアケア	6,488円
ヲタ活	7,388円

Copyright© SHIBUYA109ENTERTAINMENT Corporation All Rights Reserved.

またコロナ禍の影響により、お金の使い道に変化が生じています。コロナ禍での支出が増えたカテゴリ※図5第1位は「貯金(31.8%)」、第2位「書籍・漫画、TVゲーム・スマホゲーム(27.5%)」、第3位「スキンケア・ヘアケア(23.3%)」となり、逆に支出が減ったカテゴリについては第1位「旅行・レジャー(48.0%)」第2位「交際費(46.5%)」第3位「美容院(30.0%)」という結果となりました。

図5 Q. あなたのコロナ禍で増えた、もしくは減ったお金の使い道を教えてください。(複数回答)
WEB調査 n=400 (男性: 200/女性: 200)

コロナ禍で増えたお金の使い道			コロナ禍で減ったお金の使い道		
1位	貯金	31.8%	1位	旅行・レジャー	48.0%
2位	書籍・漫画、TVゲーム・スマホゲーム	27.5%	2位	交際費(外食・飲み会・デートなど友人知人との交流)	46.5%
3位	スキンケア・ヘアケア	23.3%	3位	美容院	30.0%
4位	ファッション・アクセサリー	18.0%	4位	ファッション・アクセサリー	30.0%
5位	スキルアップ(勉強・習い事)	15.0%	5位	コスメ	27.5%

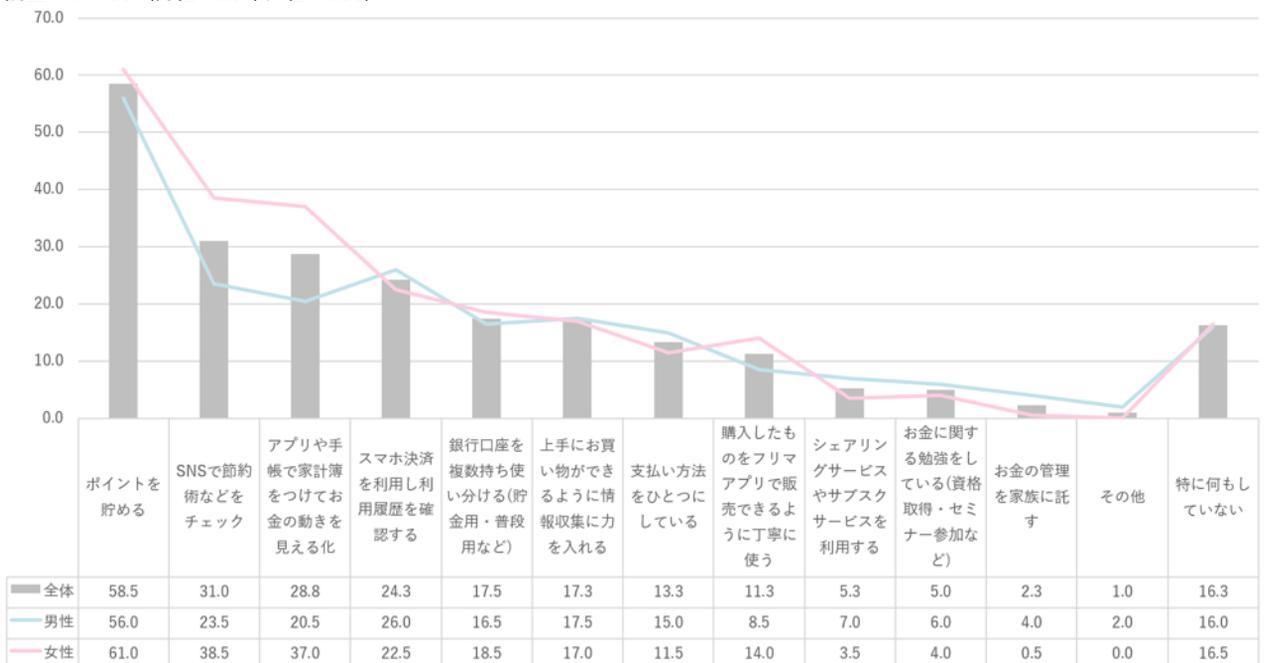
Copyright© SHIBUYA109ENTERTAINMENT Corporation All Rights Reserved.

「書籍・漫画、TVゲーム・スマホゲーム」に関しては、グループインタビューにて「コロナ禍をきっかけに雑誌読み放題のサブスクリプションサービスを契約し、今まで読んでいなかったジャンルの雑誌も含めて定期的に見るようになった」などおうち時間のお供への課金が増加していることが分かっています。そして「交際費の減少」に関しては、通学する頻度が減少したことから、ふらっと友達と遊びに行く・外食をすることが大きく減少したことが影響しています。グループインタビューでは「外出自粛により友達と遊ぶことが減り、交際費をそのまま貯金に充てた」という声が多く聞かれました。支出が減少した項目に関しては、コロナ禍という外的要因により仕方なく減らさざるを得なかったものであり、決して消費意欲が減少しているということではありません。特に旅行や友人と過ごすために費やす支出に関しては、環境の変化に応じて回復することが予測されます。

【2】やりくり上手の背景にある「むやみな浪費は悪」という価値観。SNSで節約術をチェックし有意義に

主な収入源がアルバイトの報酬である若者は、シフトの増減が影響するため、収入が不安定であることから、お金のやりくりスキルが高い傾向にあります。お金を有意義に使用するためにやっていること※図6を聞いてみたところ、最も多い回答は「ポイントを貯める(58.5%)」、次いで「SNSで節約術をチェック(31.0%)」、「家計簿をつける(28.8%)」という結果となりました。

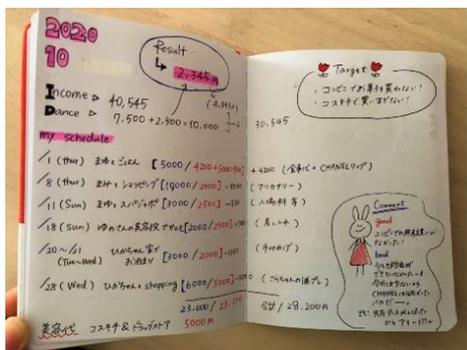
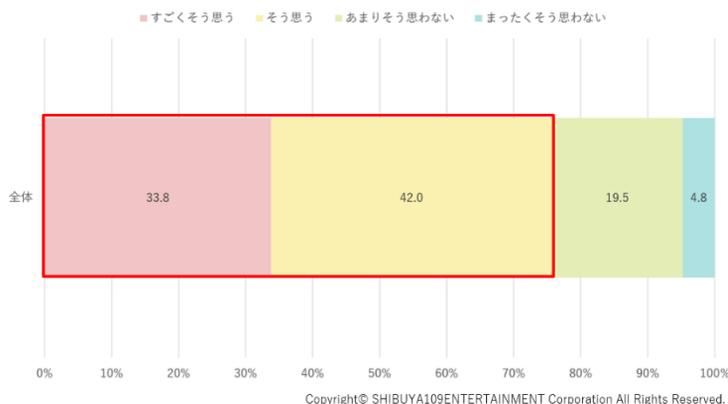
図6 Q. あなたが自分のお金を有意義に使用するためにやっていることを教えてください。
WEB調査 n=400 (男性: 200/女性: 200)



Copyright© SHIBUYA109ENTERTAINMENT Corporation All Rights Reserved.

グループインタビューでは、Instagramで節約術をチェックしているという声が特徴的であり、「“手取り●万円のOLの生活”等のタイトルの投稿をチェックしている」や「学生の服の着回し術や、月々の服にかけるお金などを参考にしている」という回答がありました。最近のInstagramでは、画像内にテキストが多く書かれた「インスタマガジン」と呼ばれる投稿が人気になっており、写真とテキストでより具体的な節約術を知ることができるため、活用されています。またアプリや手帳を活用し家計簿を日常的につけている若者も多くみられています。日常的に支出を記録し、自分が何にどのくらいお金を使っているのかを“見える化”することで、支出の見直しを行っています。家計簿を記録する理由として多く聞かれたのが「浪費癖を直すため」。WEB調査の結果※図7でも、75.8%が「お金は極力無駄遣いせずに、貯めておきたい」と回答しており、無駄遣いに対する抵抗感があることがわかります。

図7 Q. 以下の考え方についてそれぞれあてはまるものを教えてください。(単一回答)
WEB調査 n=400 (男性:200/女性:200)
お金は極力無駄遣いせずに、貯めておきたい



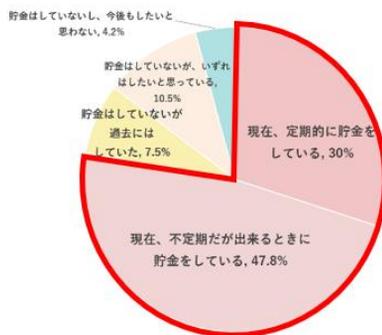
Copyright© SHIBUYA109ENTERTAINMENT Corporation All Rights Reserved.

若者の支出記録手帳
手帳を活用し支出を“見える化”

**[3] 若者の貯金総額平均約30万円！約8割が貯金、「無理をしない」貯金スタイル。
目的は学生の間に起こりうる“もしもの時”に備えること**

では、若者はどのように貯金をしているのでしょうか。現在の貯金状況※図8について聞いてみたところ、77.8%が「現在貯金をしている」と回答しており、うち47.8%が「不定期だが出来るときに貯金をしている」、30.0%が「定期的に貯金をしている」ということが明らかになりました。お金を使うことに慎重である姿勢も見られています。グループインタビューでも「毎月の貯金額が決まっているわけではないが、月収のうち、月末に余った額を貯金している」「通常より収入が多かった時に、差額を貯金している」という声が多く、無理のない範囲で貯金をしていることがわかります。

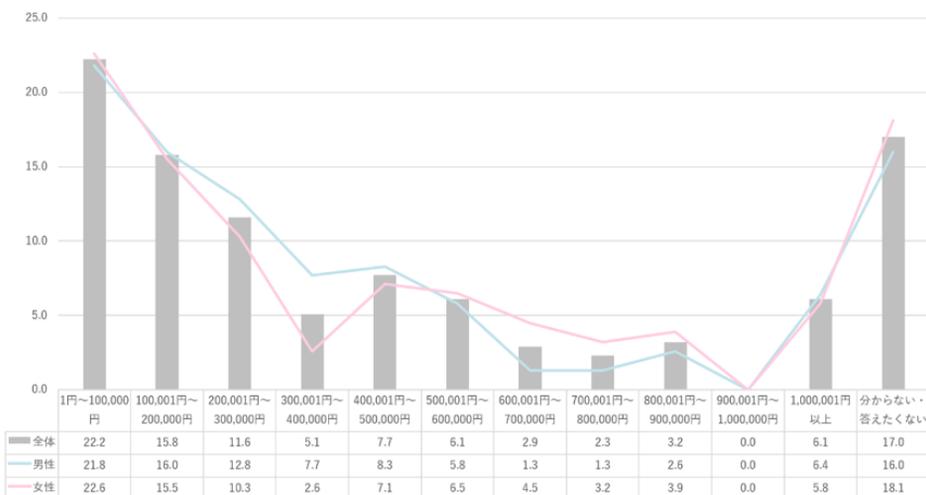
図8 Q. あなたの貯金の状況について教えてください。(単一回答)
WEB調査 n=400 (男性:200/女性:200)



Copyright© SHIBUYA109ENTERTAINMENT Corporation All Rights Reserved.

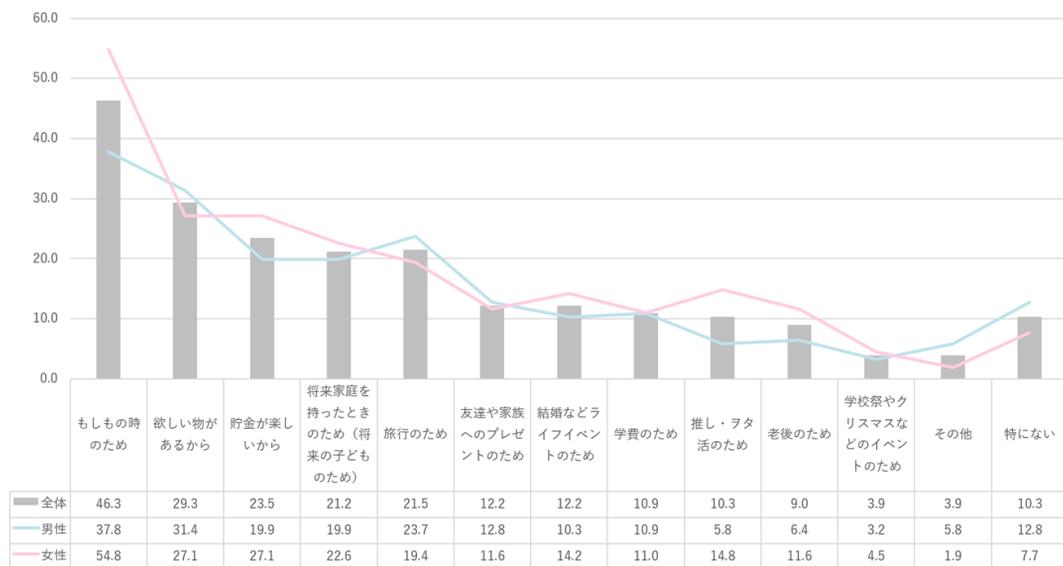
貯金の総額※図9は平均277,478円でした。貯金をしている理由※図10について聞いてみたところ、最も多い回答は「もしもの時のため(46.3%)」次いで「欲しいものがあるから(29.3%)」「貯金が楽しいから(23.5%)」という結果となりました。

図9 Q. あなたの貯金額を教えてください。(単一回答)
WEB調査 n=311 (男性:156/女性:155)



Copyright© SHIBUYA109ENTERTAINMENT Corporation All Rights Reserved.

図10 Q. あなたが貯金をしている理由を教えてください。(複数回答)
WEB調査 n=311 (男性:156/女性:155)



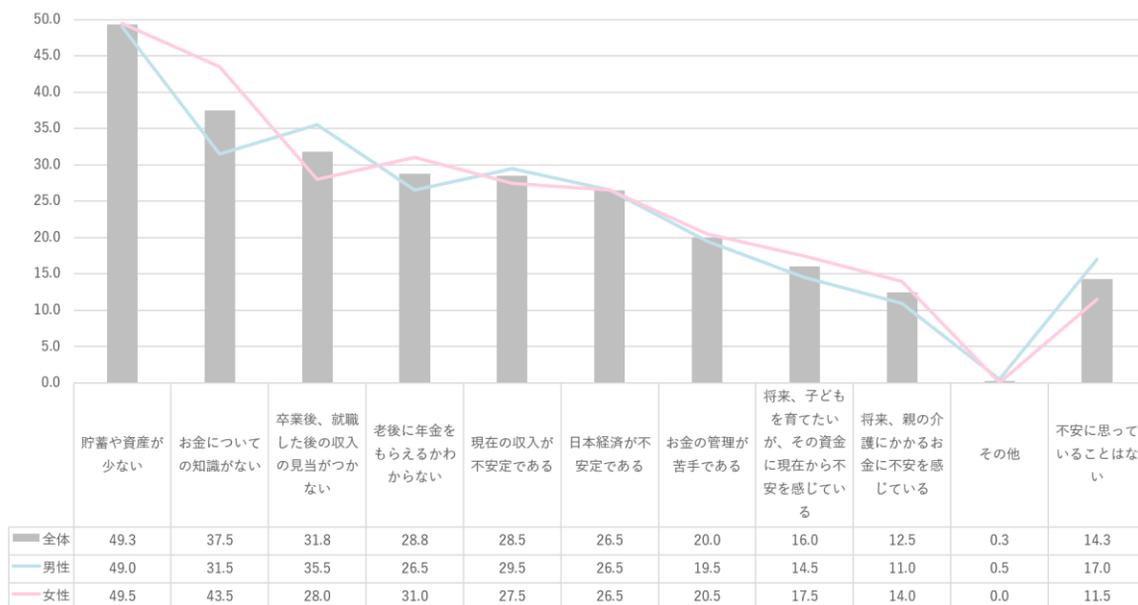
Copyright© SHIBUYA109ENTERTAINMENT Corporation All Rights Reserved.

「もしもの時のため」の具体的な内容について、グループインタビューでは「旅行に行きたいとか、何か大きな出費があるときのため」「留学など自分にチャンスが回ってきた時に、お金が出せるようにしたい」「パソコンなど、すごく欲しいけど高額なものがあつたときに、貯金から支払えるようにするため」など、10年、20年後など遠い将来のためではなく、どちらかというとい近い将来に起こりうる、ポジティブな“もしも”を指していることがわかります。

【4】貯金はするけど投資は“怖い” 信頼できる家族のサポートでお金の知識を

若者がお金に関して不安に感じること※図11として「貯蓄や資産が少ない(49.3%)」の次に「お金についての知識がない(37.5%)」が挙げられており、知識がないことで起こりうる失敗に対するリスクを感じ、慎重になっていることが考えられます。

図11 Q. お金に関する不安について、あてはまるものを教えてください。(複数回答)
WEB調査 n=400 (男性:200/女性:200)



Copyright© SHIBUYA109ENTERTAINMENT Corporation All Rights Reserved.

グループインタビューでは株などの投資に対する関心についても聴取しました。男子は比較的関心が高く、学生の時点からゲーム感覚で始めている人もいますが、女子は「興味はあるが怖いイメージがある。失敗したら取り返しがつかない」「株は終わりがなく、失敗がゴールな印象がある」等、投資に対して不安や抵抗感を持つ声が多く上がりました。最近では「スマホだけで簡単にお金を稼げる」などと謳った投資に関するSNSでの投稿を見かけるようになったが、怪しさを感じて怖い」という声も聞かれており、“お金を簡単に稼げる”に対する不信感が強い傾向にあります。また資産運用に関しては、お金に対する価値観が異なる友人よりも、家族を中心に身近で信頼できる人のサポートを受けながら始めていきたいという声も聞かれています。

【5】所長が分析！“メリハリ消費”を実現するための節約術を駆使する若者達。一番の節約術は「購入前に熟考すること」



普段からポイントをためる習慣があったり、コロナ禍で貯金をするようになったりと、今の若者は節約意識が強い傾向にあります。そのうえで「自分が価値を感じたものに対してお金をつぎ込み、それ以外はできる限り節約する」という“メリハリ消費”の特徴があり、無駄遣いや衝動買いによる浪費を回避することで、不安定かつ限られた収入を本当に自分が価値を感じるものに対して使えるよう備えておきたいという意識が強くみられています。

この“メリハリ消費”を実現するための節約術をグループインタビューで聞いてみたところ、「購入前に様々な情報をチェックし、自分なりに悩み切ってから購入する」という声が多く聞かれています。「価値を感じるもの」を見極める工程に時間をかけることで節約につながっていることが分かりました。商品カテゴリを問わず「通販では買いたい物かごとりあえず入れておき、何日か情報収集・検討をする」「欲しいものがある場合はまずはSNSで必ず情報を集める」など、購入前の検討に時間をかけるのが今の若者の特徴です。

■アンケート調査概要

①WEB調査

調査期間：2021年2月

居住地：1都3県(東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県)

性別：男女

年齢：18~24歳

職業：学生(高校生・大学生・大学院生・専門学校生・短大生)

n=400(男女各200)

※その他過去定性調査をもとに考察

※平均値の算出方法 = 各選択肢の中央値 × 回答者割合 × 0.01

②SHIBUYA109 lab.による定性調査

調査期間：2021年2月

グループインタビュー

対象者条件：大学生 男女 2G 合計8名

■SHIBUYA109 lab.概要



株式会社SHIBUYA109エンタテインメントが運営する新しい世代に特化した若者調査機関。SHIBUYA109のターゲットである「around20(15~24歳)」を中心に彼らの実態を調査し、SHIBUYA109独自の視点から分析している。

設立：2018年5月17日

所長：長田麻衣 (株式会社SHIBUYA109エンタテインメント所属)

ホームページ：<https://shibuya109lab.jp>

■SHIBUYA109 lab.所長 長田麻衣 (おさだ・まい)

総合マーケティング会社にて、主に化粧品・食品・玩具メーカーの商品開発・ブランディング・ターゲット設定のための調査やPRサポートを経て、2017年に株式会社SHIBUYA109エンタテインメントに入社。

SHIBUYA109マーケティング担当としてマーケティング部の立ち上げを行い、

2018年5月に若者研究機関「SHIBUYA109 lab.」を設立。

現在は毎月200人の「around20」と接する毎日を過ごしている。

■株式会社SHIBUYA109エンタテインメント概要



SHIBUYA109渋谷店(東京都・渋谷区)を中心とした4つの施設を展開。「Making You SHINE! -新しい世代の“今”を輝かせ、夢や願いを叶える-」の企業理念を掲げ、これからは担う新しい世代の今を輝かせ、夢や願いを叶えるため、商業施設運営に留まらないエンタテインメント事業展開を行う。

設立：2017年4月3日

代表取締役：木村知郎

ホームページ：<http://www.shibuya109.co.jp/>